1. 令和8年4月～6月期の景気動向

今期のDI平均値は△37．8ポイント。小売業は26ポイント、サービス業は6ポイント上がったが、建設業は25ポイント、製造業は8ポイント、卸売業は89ポイント下がった。前期の1～3月の△19．8ポイントから18ポイントマイナスとなった。

項目＼業種		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 44 (△ 33)	△ 56 (△ 47)	△ 13 (△ 5)	△ 15 (△ 24)	△ 33 (33)	△ 56 (11)	△ 35 (△ 46)	△ 34 (△ 42)	△ 11 (△ 39)	△ 28 (△ 33)
採算		△ 50 (△ 31)	△ 56 (△ 56)	△ 28 (△ 15)	△ 18 (△ 24)	△ 56 (11)	△ 56 (0)	△ 24 (△ 50)	△ 36 (△ 42)	△ 28 (△ 29)	△ 28 (△ 24)
資金繰り		△ 31 (△ 20)	△ 25 (△ 27)	△ 18 (△ 2)	△ 20 (△ 8)	△ 22 (0)	△ 33 (0)	△ 15 (△ 40)	△ 23 (△ 36)	△ 11 (△ 28)	△ 17 (△ 6)
業況		△ 50 (△ 25)	△ 56 (△ 57)	△ 30 (△ 22)	△ 10 (△ 21)	△ 56 (33)	△ 56 (11)	△ 24 (△ 50)	△ 24 (△ 42)	△ 29 (△ 35)	△ 24 (△ 29)
経営上の当面する問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		仕入単価の上昇		需要の停滞		材料等仕入単価の上昇	
	2位	民間需要の停滞		原材料価格の上昇		需要の停滞		仕入単価の上昇		需要の停滞	
	3位	材料価格の上昇		生産設備の不足・老朽化		人件費以外の経費の増加		消費者ニーズの変化への対応		人件費以外の経費の増加	
業種別コメント		建設業のDI値は△50ポイントと前回調査から25ポイント悪化した。官公・民間需要の回復が進まない中で、売上高が「減少」したと回答した企業は全体の50％と過半数を占めた。また、更なる材料価格の上昇が経営を圧迫し、採算が19ポイント、資金繰りが11ポイント悪化した。来期は、長期化する需要の停滞や材料コストの増加から売上高、採算、業況は悪化が見込まれ、見通しは暗い。		製造業のDI値は△30ポイントと前回調査から8ポイント悪化した。需要の停滞が長期化する中で、売上高が「減少」したと回答した企業は全体の30％、「増加」の18％を大きく上回った。売上高の減少に加え、原材料価格の上昇を企業努力だけでは吸収が難しい状況となり、採算は13ポイント悪化した。来期は、業況の改善が期待されているが、生産設備の老朽化が今後の経営課題となり、見通しは暗い。		卸売業のDI値は△56ポイントと前回調査から△89ポイントの大幅な悪化となった。売上高が「減少」したと回答した企業は全体の33％で「増加」と回答した企業は無かった。需要の停滞が長期化する中で、コスト上昇に歯止めが掛からず、全ての項目で前期を大幅に下回った。来期は、採算・業況は横ばいのものの、売上高の減少による資金繰りの悪化が予想され、見通しは暗い。		小売業はDI値が△24ポイントと前回調査から26ポイント改善された。売上高が「減少」したと回答した企業は全体の50％と過半数を占めた。依然として「需要の停滞」「仕入単価の上昇」は継続しているものの、価格転嫁が進んだことで採算26ポイント・資金繰りは25ポイント改善された。来期の見通しは、売上高・業況は横ばいが予想されるが、更なるコスト増加への対応が課題となり採算・資金繰りは悪化が予想され、見通しがつかない。		サービス業はDI値が△29ポイントと前回調査から6ポイント改善された。売上高は季節需要を期待していたものの、「減少」した企業が39％、「増加」の28％を上回った。「需要の停滞」に加え、更なる「材料等仕入単価の上昇」や「人件費以外の経費の増加」分を価格転嫁したことで、売上高を押し上げ、資金繰りは改善したものの、採算の回復までは至らなかった。来期は、需要の回復が期待できないことで売上高の悪化が予想され、見通しは暗い。	



とくに好調（50≦DI）　好調（25≦DI<50）　まあまあ（0≦DI<25）　不振（△25≦DI<0）　きわめて不振（DI<△25）

※当所では分析にあたってD･I（好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値）を採用しました。

※（ ）は前回調査時のD･I値